

東京の 演奏会から

東京ユニバーサル・フィルハーモ
ニー管弦楽団 (第28回)

プッチーニ、ヴェルディ、ロッシ
ーニのオペラ以外の佳品を集めた珍
しい演奏会、題して「大作曲家たち
のもう一つの顔」。プッチーニ《交
響的前奏曲》と《菊》は純器楽曲で
3曲目がヴェルディ《スターバト・
マリエル》だが、幕開けから合唱団
をステージに配し、弦楽のみの《菊》
でも管楽器奏者を退場させない。こ
れが聴き手の集中力を高め、甘美な
《交響的前奏曲》によって開かれた
耳が哀悼の音楽《菊》で一層研ぎ澄
まされ、《スターバト・マリエル》
の清らかな合唱の受容へと抵抗なく
広がった。二石精一の精緻な音楽表
現は求心力に満ち、こわらが口頭聴
き慣れない作品でもいふことを全く感
じさせない。後半は清水知子(S)、
菅有実子(Ms)、大澤一彰(T)、久
保和範(Bs)を迎えてロッシーニ
《スターバト・マリエル》。ソロでも
力量を出しきった彼らは重唱でも色
彩感のあるハーモニーを生み、圧倒
的なアーメン・コーラスで大曲を結
んだ。合唱団も健闘。(11月21日・

東京芸術劇場)

〈萩谷由喜子〉